令和元年度　伊井小学校　学校評価書（総合）

伊井小学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数（%）	R元前期（%）	R元後期（%）	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	1　基礎基本と活用する力の向上	①主体的な学びの視点に立つ授業改善	子どもたちが授業に主体的に取り組むように努めた	教職員	**90**	89	100	○・子どもたちが関心をもちやすいような資料を提示したり、ＩＣＴを活用したりした。 ・授業のふりかえりを毎日書かせることで、自分の変容に気づいたり次時への意欲を持たせることにつながった。 △・児童が主体的に学べる学習を意図的に考えるべき。	・主体的に取り組む指導の手立てについて全教職員で確認し、より児童が興味関心をもって取り組めるようにする。 ・ICT活用を充実させ、より一層子どもたちが授業に主体的に取り組めるようにする。 ・問題解決的な学習を単元の中で計画的に入れる。	・教職員、児童、保護者ともに目標指数を超えた評価を得ている。よりよい授業作りがなされた結果である。保護者の満足度も高く、期待も大きいと思われるので、今後とも児童の主体性を大切にしＩＣＴの活用、問題解決的な学習を取り入れた取組をお願いしたい。
			授業に主体的に取り組んだ	児童	**90**	99	98			
			学校は子どもたちが授業に主体的に取り組めるよう工夫している	保護者	**90**	99	100			
		②わかる授業・魅力ある授業の創造	わかる授業に努めた	教職員	**90**	100	100	○・どの学年も基礎基本の力がついてきている。 ・通級による個別対応ができた。 ・校内学力テストは学習した基礎内容の定着を図るのにはとても有効であった。 △・学力がついていないと感じる子へは、さらに反復練習をする、ユニバーサル的な授業をする、特別支援教育を考える等、子どもに合わせて考える。	・授業や休み時間を通して、個に応じた指導をしていく。 ・電子黒板等、さらにＩＣＴの活用をするとよい。（研修会、ＯＪＴ）	・児童は個々に合わせて指導をしているようで嬉しく思う。しかし個人差があるので、理解するまで繰り返し復習するようにしてほしい。
			日々の授業がわかった。	児童	**90**	94	95			
			子どもたちは授業がわかっている。	保護者	**90**	93	93			
		③話し合う力の向上	授業や生活場面で話し合う力を高める指導を積極的に取り入れた	教職員	**90**	88	100	○・スピーチ集会は、過去５年間のうち一番感想発表が多い。これまでの積み重ねと改善により、児童の話そう、聞こうとする姿勢が定着してきたといえる。 ・ペアトークや朝のスピーチ等で話す聞く活動を大切にしてきたことで、外部の方に対して積極的に質問や感想を言えるようになった。 ・発表が苦手な児童も発表できるように、言葉で発言するのではなく、黒板に書かせた。 ・自分の考えを表現する機会を全員に設けるためにペア学習をできるだけ多く取り入れた。 ・朝の会のスピーチでコメントすることでスピーチ、質問や感想の内容がよくなった。 △・話し合う時間があまりなかった。 ・相手意識がまだ不十分である。	・「話す・聞く」力をつける場を計画的にもつ。 ・相手を意識した「聞き方」「話し方」の指導の工夫をしていく。（朝の会のスピーチ等、担任でしっかり聞いて、本人に評価を伝えるようにする。	・人数が少ないので、発表する機会を多くもつよう工夫し、コミュニケーション力を高めて欲しい。 ・コミュニケーション能力は将来大切。同級生だけではなく、上下の学年との接し方、大人との接し方を身につけれるとよい。そんな機会を増やして欲しい。 ・発表の仕方も工夫され、子どもたちの発表力向上に繋がっていると思う。 ・話す、聞く、伝える力は今後の人生でとても重要なので積極的に行っていって欲しい。
			毎日の授業や生活の中での話し合い活動でよく発言できた	児童	**90**	87	90			
		④家庭学習のあり方の工夫（1～3年30分4年以上学年×10分）	家庭での学習の指導を継続的に行った。	教職員	**80**	100	100	○・学力向上週間等、学習時間を意識して取り組む子が増えてきた。 △・自学する子が限られている。	・宿題の達成率は高いが、設定時間できているかはばらつきがあるので、早く宿題が終わった子には、自学を奨励する。 ・自主学習の取組の良い例を掲示したり、児童の頑張りを可視化したりして、児童の習慣づけ、保護者の意識付けをする。 ・自主学習の内容や取組について、学校で共通理解を図る。 ・常日頃から、子どもに学習時間を意識させる。（家庭にも）	・低学年の子は殆どが、児童クラブに行っているので、児童クラブの先生方と連携を行っていただけると、保護者の方も助かると思う。しかし、保護者は我が子の家庭学習については、協力して見る必要性も感じる。
			家庭での設定した学習時間を達成できた。（週４日以上）	児童	**80**	92	93			
			子どもたちは設定時間、家庭学習に取り組んでいた。	保護者	**80**	74	82			
	2　読書習慣の育成	⑤読書に親しむための取組	読書指導に継続的に取り組み、読書習慣の向上を図った。	教職員	**80**	100	100	○・気軽に図書室に行くよう声をかけた。帰りの会の後本を借りに行くよう促した。 ・机の横の手提げカバンの中に、常に本を入れておくようにしている。隙間の時間には読書する習慣が身についている。 △・読書は月、金曜日の朝学習で取り組んでいるが、読解力を高めることを考えると、感想を書くとよい。（絵や写真だけで文を読んでいない子もいる） ・週末読書をもっと徹底したい。	・週末読書の徹底。金曜日に声かけをしていきたい。 ・評価の観点の内容が保護者の評価になっていたので変更する。 ・保護者に児童の読書状況をおたより等で知らせて、家庭での読書の意識を高める。 ・家庭での読書の時間があまり取れていないため、親子読書の啓発をしていく。 ・様々なジャンルの本を読むように工夫していく。	・朝読書の日数を増やすとよい。 ・教職員、児童、保護者の評価に開きがある。保護者世代は、一般的におたよりや広告紙、新聞を読まない。携帯などで好みの情報を取捨選択している。月ごとに動物関係の本を読む、宇宙関係の本を読むとか、緩い枠組みを提案してみるとよい。 ・週末に本を借りて読む習慣を付けたい。 ・多く本を読んだ子を表彰するとよい。 ・「家庭読書の日」に向けて保護者に対して意識づけられないか。 ・保護者の意識を改革していくことが大切だが、家事等々が忙しく、子ども自身が、読書が楽しいという意識にかわって行くと良い。 ・読み聞かせの心地よさを、感じてもらい、読書の意欲に繋がると良いと思う。 ・読解力がない現状である。興味のある本を読むことから読書と向き合う体勢をとりつつ、読む力の向上を図ってはどうか。 ・小学生のころ「こども新聞」をよく読んでいた。そんな習慣がつくと良い。
			読書に継続的に取り組むことができた。	児童	**80**	84	84			
			家庭において、読書について話題にあげたり、読書の時間を設けたりする機会を持った。	保護者	**80**	59	44			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数（%）	R元前期（%）	R元後期（%）	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心	1　思いやりの心の育成	⑥あいさつの習慣化推進	児童に対してしっかり挨拶し、謝罪・感謝の言葉を交わす指導を行った。	教職員	**90**	100	100	○・挨拶の意味について話し合ったり、どのようにするとよいかについて考えたりした。 ・「ありがとうの木」を創って、感謝の気持ちを表すように積極的に働きかけを行った。 △・挨拶はするが、大きな声で自分から進んでする子が限られている。継続して指導したい。 ・「ごめんなさい。」は言えるようになってきたが、「ありがとう。」のことばが少ない。 ・挨拶、校歌の声がまだまだ小さい。（挨拶の声は出る子が増えてきた）	・集団登校の集合場所で、地域の方に挨拶できたかチェックしていたが、来年度も継続する。 ・子ども会で指導する。特に高学年は低学年の見本になるように努める。 ・「挨拶ビンゴカード」は挨拶に関心をもつので、年に数回実施するとよい。 ・校歌を歌う時、事前に教室で動機付け（声かけや声出し）をしてから体育館に出る。 ・保護者へ挨拶の大切さ、大人が見本を見せることの大切さを啓発する。 （お便り、PTA総会、保護者会等）	・挨拶はコミュニケーションの基本なので、繰り返しの指導をお願いしたい。 ・地域でも「挨拶運動」を子どもを育てる地域づくりの一環として取り組みたい。 ・挨拶は強制されてするものではないと思う。その場に応じた挨拶は、そのつど大人が見本を示していけば、必要に応じた時に子ども自ら挨拶ができると思う。（わかっているけど、照れくさいのだと思う。） ・挨拶や、思いやりの心といった児童の心を成長させる活動は今後とも積極的に行って欲しい。 ・あの手この手で指導しないといけない。子どもだけでなく大人もしないが、諦めてはいけない。
			「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」等のあいさつを自分から行った。	児童	**90**	100	88			
			子どもたちは自分から「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」などのあいさつをしていた。	保護者	**90**	83	85			
		⑦みんなで取り組む活動の工夫	グループ活動やふれあい班活動が楽しくなるよう努めている	教職員	**90**	100	89	○・縦割りの活動がとてもよい。積極的に縦割り活動を企画したい ・委員会の発表が工夫されていて、少ない活動時間で効率よく取り組んでいた。 △・掃除についてはどのようにしたら学校がきれいになるか児童に考えさせたらどうか。 ・無言清掃が徹底できていない	・人数の多い掃除場所で話し声が聞こえるので、割り当てを再考する。（無言清掃が徹底していない） ・ふれあい給食の場を設定する。（２学年で食べる、ふれあい班で食べる等）	・小学1年生で子どもクラブに入ってきた子どもたちが、進級するにつれ社会性を身につけ豊かな心が育っていることを感じる。伊井小学校の教育力のおかげである。 ・縦わりの活動が多く、その都度思いやりや優しさが伺えとても嬉しく思う。 ・バドミントンクラブで低学年と高学年の児童がじゃれあう姿を見ている。縦割り活動の成果だと思う。
			友だちやふれあい班での活動は楽しい	児童	**90**	97	99			
			子どもたちは友だちやふれあい班での活動を楽しいと思っている	保護者	**90**	100	97			
		⑧思いやりの心	相手を思いやり親切にする指導を継続して行った	教職員	**90**	100	100	○・道徳教育に力を入れ、自分自身の行動を振り返ることや今後に生かせるように指導している。 ・ふれあい班の活動をはじめ、普段の生活も高学年の児童が下級生に優しく接している。 ・「思いやりの木」で友達のよさに気づいたとともに友達に対する心配りを意識することができた。 △・相手を思いやる言動について常々指導しているが、なかなか行動に移せない子がいる。 ・今後より考え、議論させる道徳の授業を進めたい。	・「思いやりの木」の実践は来年度も継続する。	・素直で元気よく活動している子どもたちを見て、学校教育の素晴らしさを感じている。私たちも元気をもらっている。 ・「思いやりの木」を継続してほしい。 ・あいさつや、思いやりの心といった児童の心を成長させる活動は今後とも積極的に行っていって欲しい。
			相手を思いやり親切にしている	児童	**90**	99	96			
			子どもたちは相手を思いやり、親切にしている	保護者	**90**	89	92			
	2　いじめ不登校の防止	⑨楽しい学校生活	学校生活が楽しくなるよう努めている	教職員	**90**	100	100	○・毎日、楽しく学校生活を送れている児童が増えた。 △・保護者から友人と円滑にできているのか不明だという声がある。	・ＳＳＴの活動を継続する。 ・月目標を意識させるために、生徒指導主事が毎月全体指導したり、放送等で学級目標の発表の場の設定したりする。月目標や学級目標の振り返りの場の工夫する。	・楽しくないと答えた個人の状況はわからないが、何でも100%にならなければいけないことはない。 人間として大事なことは、自分の困り感を自覚し、外部に訴える力であり、楽しくないということを伝えられることも大切である。そういった点で児童評価で「学校の先生は自分の話を聞いてくれる」と感じていることはよい取組がなされている成果である。 ・不登校を未然に防止する対策として「魅力ある学校づくり」に期待する。楽しく学校生活が送られているようで嬉しく思う。半面、100%でないのが寂しい。是非、原因を調べ対処して欲しい。 ・SSTの活動を継続的に行っていって欲しい。具体的にどのような活動を行っているのか気になる。
			学校に来るのが楽しい	児童	**90**	89	96			
			子どもたちは学校へ行くのが楽しいと思っている	保護者	**90**	95	95			
		⑩児童理解	児童理解に積極的に努めた。	教職員	**100**	100	100	○・保護者と密に連絡を取るように努めた。 ・ハートふれあい週間で面談するのは、児童を理解するのに役立った。 ・木曜日の終礼の後に児童理解をするのは情報共有の点でよかった。 ・「ハートふれあい週間」のことばが浸透してきた。 △・個々の児童に関心をもち、信頼関係を築く事が大事である。	・来年度も週に一度気がかりな子について情報交換の場をもつ。 ・ハートふれあい週間がマンネリ化しないようにする。	・担任以外に心を開く場合もあると思う。いろいろな機会に話をする時間を設けるとよいのでは。 ・人数が少ないので、多くの行事で活躍の場があるので、恵まれている。 ・やさしい子が多いのは地域のよさである。心がしっかりしていれば、中学校へ行っても大丈夫。 ・何か一つでも褒めるところを見つけて褒めてあげてほしい。児童理解につながる一歩である。 ・児童理解に努めていただきありがたい。児童アンケートなど言いにくいことが言える機会をつくるのもいいのではないかと思う。 ・児童理解が100%に近いのは、先生方の一人ひとりの児童に対しての愛情の賜物だと思う。
			学校の先生は、自分の話を聞いてくれる。	児童	**100**	99	99			
			学校では、子どもの相談に応じたり、「ハートふれあい週間」による面談等で、児童理解に努めている。	保護者	**100**	94	97			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数（%）	R元前期（%）	R元後期（%）	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな体	1　望ましい生活習慣の育成	⑪早寝・早起き・朝ごはんの指導	早寝・早起き・朝ごはんの指導を継続して行う	教職員	**90**	88	100	○・なぜ朝食を食べるかの意味について指導し、自己管理の意識が芽生えるように努めた。 ・健康観察の時に「早寝」についてチェックし、一人一人の児童の生活状況を知り、指導した。 ・健康観察や長期休業中規則正しい生活が重要と考え定期的に保健指導を実施している。 △・普段の日常生活を規則正しく送れるように、個々の相談、保護者との密な関係を積極的にとれるようにしたい。	・個に応じて指導し、必要に応じて家庭と連携をとる。 ・来年度も朝の健康観察の時に、「早寝」「朝食」についてチェックし、指導する。	・児童の自己評価が高いのは喜ばしい。「自己管理の意識が芽生えるように努めた」成果であると思う。生活状況をチェックして評価してもらえるのは小学生時代の特権で指導を継続して欲しい。 ・規則正しい生活習慣には、保護者の役割が重要。保護者への積極的な啓蒙に努めてほしい。今の時代は、塾やスポーツ少年団に通う児童が多く難しい。児童たちに、自分の体の働きや大切さを知らせ、理解することにより少しでも改善できればと思う。
			早寝・早起き・朝ごはんに毎日取り組む	児童	**80**	96	96			
			子どもたちは早寝・早起き・朝ごはんに毎日取り組んでいる	保護者	**80**	94	91			
	2　主体的に取り組む運動習慣の育成	⑫主体的に取り組む運動習慣の育成	授業や業間体育での記録の伸びるよう励ましながら指導した。	教職員	**90**	100	100	○・業間マラソン、なわとびでは、励ますだけではなく小さな目標を立てたり、コツを教えたりして頑張れるように工夫した。 ・マラソンの後にどれだけ走ったかチェックし、励ましの声かけをした。 ・児童が目標を持って取り組んでいるため、技術や体力が向上した。 △・後期は業間マラソンの時間があまりとれていないように思う。	・マラソンやなわとびなど業間の活動日数が少なくなったため、児童の意欲を継続させるために各学年の目標を設定する。 ・学年や活動期間に合わせた体育カードの工夫や改善を行う。 ・個人の頑張りを評価するだけでなく、集団での目標達成を目指す工夫をすることで、伊井っ子全体の体力向上につなげる。	
			授業や業間体育で記録が伸びるよう努めた	児童	**90**	93	89			
			学校は、子どもたちがめあてを持って体力向上に取り組めるよう努めている	児童	**90**	96	96			
	3　安全教育の推進	⑬安全教育の推進	安全に気をつけて生活するよう継続的に指導する	教職員	**90**	100	100	○・防災について、訓練やビデオ視聴をして、児童の意識が高まっていると思う。 △・なわとびを進んでするのはよいが、廊下でのなわとびは場所によって危険が伴う。（廊下は人が歩く所） 廊下で活動するときのきまりを作るとよい。	・廊下でのなわとびは、きまりを明確にし、安全に行えるようにする。	・地域でも「子ども防災」に努めたい。 ・雨天日の登校時傘を差すこともあるが、回す子がいて危ない。またしぼめて持って帰るときにも振り回すことが有り、危険。見守り隊なので 気づいたときはやめるよう促している。しかし、思い立ったように突然行動し、周囲に対する注意を払うことができないことがある。危険な行為であることへの理解とやらない自覚の形成をして欲しい。
			安全に気をつけて生活する	児童	**90**	97	99			
			子どもたちは安全に気をつけて生活していると思う	保護者	**90**	94	96			
家庭・学校・地域の連携	1　家庭・地域と連携した教育活動推進	⑭スマートルール推進	スマートルールをもとに指導している。	教職員	**80**	75	100	○・生活習慣のリズムをつけることと関連させ、スマートルールを意識するように指導している。 ・高学年において、スマホ・ケータイ教室を開き、予防に努めた。 ・県から発行されるネットに関するおたよりについて必ずコメントをつけて配布した。 ・気がかりな児童については保護者会でおうちの人に伝え、相談した。 △・児童はスマートルールの内容を理解していないように思う。普段から意識化するよう指導を考えるべき。	・教職員への意識改革をする。 ・スマートルール、県からの資料をただ配布せず、その都度指導していく。 ・スマホケータイ教室は毎年実施する。（全学年） ・アンケート結果を保護者に伝え、家庭での改善策を考えてもらう。	・親が気づくべきであり、家庭でルールを作り、守らせる必要がある。 ・親がもっと注意するべき。最近では親もスマホばかりしているところも多いため、そのような状況でいくら説明しても意味がないと思う。 ・フィルタリングを絶対かけるべきである。 ・ゲームを通して会話できることも有り、悪いことばかりではない。要は自制できるかが問題。 ・熱中できる何かが見つかれば良い。親が道を作ってあげるとよい。 ・スマホ老眼が小学校で最も多いと言われている。健康診断の結果を提供し、視力障害を親子で話し合うテーマにするのもルールづくりにはよい。今の時代は難しい問題だと思うが、ノーメディアデーを継続させながら、児童にメディアが児童の身体へ及ぼす弊害も強く知らせながら、指導してほしい。
			TV、ゲーム、インターネットはルールを守って、見たり使ったりしている。	児童	**80**	79	85			
			家庭のルールをつくり、守るよう取り組んでいる。	保護者	**80**	88	70			
		⑮学習や生活の様子を伝えるための工夫	お便りやホームページなどを通して学習や生活の様子を伝えている。	教職員	**80**	100	100	○・各学年おたよりや連絡帳を通して、児童の学校の様子について適時連絡した。	・今年度の取り組みを継続をする。	・学校内部はわからないが、ＰＴＡ等で学校や地区の新聞作りを見るとよく活動されていると思うことがある。
			お便りやホームページなどを通して子どもたちの学習や生活の様子がわかる。	保護者	**80**	96	99			
	2　ふるさと学習、値域教育力の活用推進	⑯地域との連携	地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	教職員	**90**	63	100	○・学校全体として地域の教育資源を活用できた。 ・今年度、サポート会の方を招いて感謝する会を行った。みんなのために労苦をいとわない地域の方に感謝する気持ちがもてるよう、今後も指導していく必要がある	・人材リストを作成する。（各学年で記入） ・今年度、サポート会の方を招いて感謝する会を行ったがこれからも継続する。 ・サポート会の方と一緒に活動できる機会を増やす。（集会に招く。）	・地域との連携は不可欠。「いい地域にはいい学校がある。いい学校はいい社会を創る」の通り、積極的に関わってほしい。 ・地域においても多世代交流や子ども福祉委員活動などを通して社会性を身につける活動を進めたい。 ・伊井地区は他の地域からみると小さくまとまりがあり、地域の方も協力的で、とても温かくて良いと思う。今後も地域の連携を大切にして欲しい。 ・近隣の小学校とふれあう機会があればいいと思う。スポーツ交流会や意見交換なで、いろいろな人とふれると、中学校へ行ってもとけ込み易い。
			地域の行事に参加したり、地域の人とふれあったりすることは楽しい。	児童	**90**	100	99			
			学校は、地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	保護者	**90**	99	99			